

# Guide & Tips × × ×

くまの自然歳時記 Vol.7

## カエデらしくないカエデ —チドリノキ—



チドリノキ



カエデ属の葉

今年9月、当センター主催事業の熊野古道自然学校で大台ヶ原の自然を学ぶ観察会を行った。場所は日本で初めて「利用調整地区」に指定された西大台で、筆者自身講師として参加した。「利用調整区域」とは、将来にわたり良好な自然環境を保持し、より質の高い自然体験の場を提供するため、立入り人数を制限する区域のことで、入山者は事前にレクチャーを受講し、ルールに従って利用する必要がある。

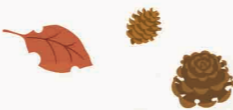
西大台はブナ、ミズナラ、カエデ類などの落葉広葉樹、ウラジロモミヤヒノキ、イチイといった常緑針葉樹が観察できる、いわゆる針広混交林の森で、ウラジロモミとブナが多く自生していることから「ウラジロモ

ミブナ群落」と呼ばれる。他にも、サワグルミヤシナノキ、ハリギリといった私たちが日常見ることのない樹木も観察できるのが特徴だ。

さて、今回の観察会で珍しい樹木を見つけたので紹介したい。ムクロジ科カエデ属のチドリノキ (*Acer carpiniifolium*) という落葉広葉樹だ。読者のみなさまもご存じ、いわゆるモミジと呼ばれる樹木の仲間だ。では、写真を見ていただこう。おや?と感じた方もいるのではないか。モミジといえば葉に6裂から10裂の切れ込みが入った一目見てわかる葉をもつ樹木だ。この葉は切れ込みがまったくない。属名から「カエデらしくないカエデ」と呼ばれる木だ。樹木を学び始めた頃の私は、

やはり同定に悩んだ。しかし、よく観察すると葉の付き方は対生、果実がついていけばプロペラ状になっていることがわかり、すぐにカエデ属ということがわかる。

はじめて見る樹木に参加者一同驚きの声が上がリ、じっくり興味をもって観察していたのが印象に残った。今回紹介したカエデらしくないカエデは他にもいくつかある。これをきっかけに植物辞典を開き、山野に出かけて探していただきたい。向上心をもってさらにカエデの不思議を探ってみよう!



## ひとりごと 川端守の

### NO.14 ぐあん 愚庵「巡礼日記」を歩く(その6)

明治26年10月2日、いよいよ西国一の難所、矢の川峠越えである。八鬼山越えの明治道は矢の川峠を越えて熊野へと向かう。

「故道(八鬼山越えのこと)は左の方、名高き難所なり。新道は右の方、矢の川峠、上り四里、下り三里、八鬼山越えに比べては、やゝ適しといえども、路の難易、同日の論にあらずといふ、されば今日は新路を行く、七里の山中、人家はただ三戸のみ、大又を経て、小坂の里に宿る。路八里半、天気よし」

バス道としての矢の川越えの完成は、南谷回りのコースで、省営バスが走り出したのは昭和11年の10月からである。明治道の完成は昭和

和までずれこんだことになる。

愚庵が歩いたのは、大橋、プレカット工場のある場所から、小坪までの直登コースで今も道の跡だけが山の中に残る、延々と南谷を回るバス道に比べれば、急坂とは言え距離としては短い。愚庵はしんどいと言わず黙々と歩いた。

愚庵の歩いたのは尾鷲、多分中井の旅籠から小坂まで。木本までは一日で無理だったのだ。

南谷周りのバス道について言えば、映画監督の小津安二郎(1903~1963)が昭和34年の6月10日にバスに乗って越えている。木本駅を午前9時発のバスに乗り矢の川峠を越えて尾鷲駅に11時40分に到着している。バスでも2時間40分を要しているのだ。そのバス道も今では通行止めになっていて矢の川峠までは遠い。



矢の川峠

# 三重県立熊野古道センター

The Letter from Mie Prefectural Kumano Kodo Center からのてがみ

2023 No.69 冬



大又川 飛鳥町小坂地区

**お知らせ**

企画展、イベント情報、センター周辺のちょっとした話題など、随時更新しています。ぜひご覧ください。

企画展、イベント情報、センター周辺のちょっとした話題など、随時更新しています。ぜひご覧ください。

YouTube 公式 X (旧Twitter) インスタグラム 随時配信!

**センター敷地内 『夢古道おわせ』**

ぜひお立ち寄りください!

**海鮮レストラン イサバヤ**

尾鷲を一望できる海鮮レストランで、新鮮な魚介類を使った海鮮丼やステーキなど、漁師直営のお料理をお楽しみいただけます。

営業時間 午前11時~午後2時 (オーダーストップ) | 『イサバヤ』に関するお問い合わせは TEL 0597-23-0877

**みえ尾鷲海洋深層水 夢古道の湯**

深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。ミネラルが豊富で保温性に優れているので、湯上り後もポカポカです。

営業時間 午前10時~午後9時30分 (入館受付:午後9時まで)

『夢古道おわせ』に関するお問い合わせは TEL 0597-22-1124

**熊野古道センターからのご案内**

尾鷲北IC→坂場交差点を直進→「ホテルビオラ」さんがある交差点を右折→しばらく県道を海沿いに走り、案内看板を右折して到着です。(尾鷲北ICから約10分) ※尾鷲南ICからは約8分

**お車で越しの方は...**

尾鷲北IC→坂場交差点を直進→「ホテルビオラ」さんがある交差点を右折→しばらく県道を海沿いに走り、案内看板を右折して到着です。(尾鷲北ICから約10分) ※尾鷲南ICからは約8分

**電車で越しの方は...**

JR尾鷲駅下車→ふれあいバス「尾鷲駅」バス停(徒歩1分)、または三重交通「尾鷲駅前」バス停(徒歩5分) 乗車→「熊野古道センター前」下車

**熊野古道センターからのご案内**

2023年 冬号

- 発行日:2023年12月10日(季刊)
- 編集・発行:三重県立熊野古道センター (三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
- 編集担当:嶋田
- 連絡先:〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4 TEL 0597-25-2666 FAX 0597-25-2667 Mail info@kumanokodocenter.com
- 開館時間:午前9時~午後5時
- 入場料:無料
- 休館日:12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

熊野古道センター 検索

ホームページ <https://kumanokodocenter.com> 60000231210HS

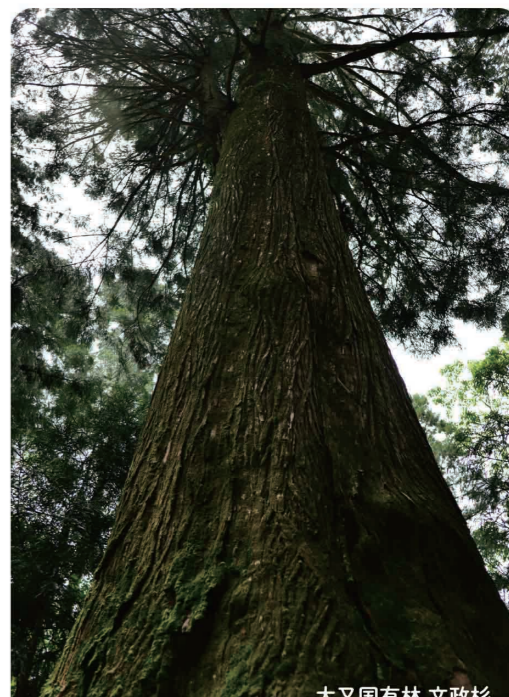
企画展

# 流れ谷の自然と暮らし

2023 12/23(土) ~ 2024 2/11(日・祝)

「流れ谷」とは現熊野市飛鳥町及び五郷町を流れる熊野川水系大又川の流域一帯の俗称です。呼び名の由来や範囲定義などに関する史料はなく、主に口碑伝承によります。古くより周辺地域から山地で隔てられ、近世の主要道であった熊野街道からも外れ、尾鷲や木本との交通が開通する明治中期までに時間を要しましたが、吉野方面への向かう大和街道の重要な玄関口でもあり、木本や新鹿方面からの往来が多かったともいわれています。

流れ谷は、その急峻な地形から耕地面積が小さく、年貢に苦しんだ挙句に身売りが行われたり、大規模な一揆勃発により多数の犠牲者がでた哀しい歴史があります。一方で、温暖多雨な気候が育んだ豊かな自然資源に恵まれてきた地域でもあります。



大又国有林 文政杉

